呼吸器内科

1 研修目標

(1) 一般目標

- ① 内科医師として必要とされる呼吸器疾患に関する病態、診断および検査法、治療に関する知識と技能を身につける。
- ② 臨床医として必要とされる患者および患者家族への接遇と病状説明能力、医療チーム内での連携能力とコミュニケーション能力、並びに指導力、プレゼンテーション技能、問題解決能力を身につける。

(2) 行動目標

- ① 入院患者の受け持ち医および呼吸器救急患者対応を通じて、呼吸器内科における基本的な診察手技、検査・治療手技、薬物管理、呼吸管理（呼吸リハビリテーション療法を含む）を習得する。
- ② 受け持ち患者の問題点を整理し、文献検索やコンサルテーションを通じて、問題点への考察、検査計画、治療計画を立案する。

2 研修方略

(1) 研修期間

研修期間1～3ヶ月間とする。必ずしも連続しなくてもよい。

(2) 方法

① 呼吸器疾患における医療面接（病歴聴取）

呼吸器疾患を診療する上で必要な既往歴と合併症、職業歴、喫煙歴、薬剤使用歴、生活環境（ペットなど）、旅行歴などの医療情報を的確かつ効率的に取得できる医療面接技術を習得する。

② 身体所見

胸部聴診、視診、触診、その他の呼吸器疾患患者の診察技術を習得する。

③ 胸部画像検査

胸部単純X線検査、胸部CT検査、胸部MRI検査等の胸部画像検査の適切なオーダーの仕方、画像読影技術、プレゼンテーション技能を習得する。

④ 胸部超音波検査

胸水、心嚢水、腫瘍の観察、肺性心・右心不全の評価法を習得する

⑤ 気管支鏡検査

気管支鏡指導医の指導下において、咽頭麻酔、ファイバー挿入、観察、喀痰吸引手技までを経験する。

⑥ 胸腔穿刺、胸腔ドレナージ

指導医の指導下において、胸腔穿刺手技、適切な検体処理、検査オーダー、結果

の評価方法、胸腔ドレナージ手技と管理方法を習得する。

⑦ 呼吸機能検査

呼吸機能検査の適切な評価法について学習する。

⑧ 酸素療法

急性期と慢性期の酸素管理法、動脈血液ガス分析の評価法、在宅酸素療法の適応や種類を習得する。

⑨ 患者教育

気管支喘息患者の教育、慢性呼吸不全患者の教育、禁煙指導、ワクチン接種等、呼吸器疾患において重要な患者教育技術を習得する。

⑩ 代表的呼吸器疾患の診断治療

呼吸器感染症：肺炎、肺膿瘍、胸膜炎/膿胸、抗酸菌感染症、肺真菌症

悪性腫瘍：肺癌、胸膜中皮腫、縦隔腫瘍

アレルギー性疾患：気管支喘息、好酸球性肺炎

COPD、気管支拡張症

びまん性肺疾患：特発性間質性肺炎、薬剤性肺障害、膠原病肺など

続発性気胸、慢性呼吸不全

(3) 週間スケジュール

① 朝回診 朝8時 病棟集合

② 夕回診 集合時間は当日に確認

	月	火	水	木	金
AM	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修
PM	病棟研修 13:45～ 気管支鏡検査	病棟研修 13:45～ 気管支鏡検査	病棟研修 13:00～ 気管支鏡検査	病棟研修	病棟研修
		18:00～ 入院症例カンファ (部長回診を兼ねる)	17:30～ 病理カンファ 18:00～ 外科合同カンファ	18:00～ 勉強会 (不定期開催)	

* 入院症例カンファランスは 別日に変更となる場合がある。

* ミニレクチャーを適宜開催することがある。

3 研修計画責任者 (研修指導責任者)

呼吸器内科部長 伊藤 優

4 研修指導医

伊藤 優 (呼吸器内科部長) 日本呼吸器学会 呼吸器指導医
日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡指導医
日本化学療法学会 抗菌化学療法指導医

小澤 聡子 (アスベスト疾患ブロックセンター副部長) 日本呼吸器学会 呼吸器指導医
日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡指導医

川島 英俊 (呼吸器内科医師)

5 評価

- 1) 研修期間中は、研修評価表の項目に従って、研修指導医及び研修指導責任者から、定期的に目標到達度の評価を受ける。到達度の低い項目については、指導医との面接を通じて、研修の一層の充実を図る。
- 2) 診療録、医療文書の記載方法、記載内容に関して、適切な記載がなされているかを研修指導医及び研修指導責任者より時監査・指導を受ける。
- 3) 研修期間中、看護師、薬剤師、栄養管理師、ソーシャルワーカー、その他からなる、チーム医療スタッフからの恒常的評価を受け、問題点を研修指導医に報告する。
- 4) 研修終了時点で、研修指導医と研修指導責任者が協議して、研修評価表に基づく最終評価を行う。同時に、研修医自身による自己評価を行う。評価結果は研修委員会に報告し、自科の研修終了の可否を研修委員会に勧告する。

付記

【当科の特色】

- 1 呼吸器内科で対象とする疾患は多岐にわたることから、呼吸管理や胸部画像診断、感染症学、アレルギー学、臨床腫瘍学、老年医学を広く研鑽することが可能である。
- 2 内科的な common disease が比較的多く、急性期疾患から慢性期疾患まで幅広い研修が可能である。
- 3 肺がん、胸膜中皮腫、間質性肺炎等の予後不良疾患に対する緩和医療や終末期医療についても学べる機会が多い。
- 4 呼吸器内科と呼吸器外科は、同じ病棟で仕事をしており、一体となった診療が可能な体制となっている。病理部との3科合同カンファレンスも週1回定期的に開催している。

【研修志望者への一言】

呼吸器内科の研修では、抗菌薬、ステロイド薬、がん化学療法（抗がん剤、分子標的治療薬、がん免疫療法）、緩和治療薬（オピオイドなど）等の基本的な使い方、酸素療法や胸水管理などの呼吸器の基本的管理法、そして胸部画像検査の読影技術を学ぶことが可能です。呼吸器内科学以外を専攻志望している方も、当科での研修を選択することを是非お勧めします。短い期間であっても実りの多い研修となって、少しでも将来の糧となってもらえれば幸いです。